

伊那市誕生20周年記念

まほらいな市民大学講座・伊那市公民館連携事業

早稲田人形浄瑠璃公演

『三番叟』

『本朝廿四孝 十種香の段』

阿南町「早稲田人形浄瑠璃」保存会

令和8年6月7日(日) 13:30~15:00

伊那市生涯学習センター 6階ニシザワいなっせホール

### 早稲田人形浄瑠璃の概要



早稲田人形は、三人遣いの人形浄瑠璃である。開始時期は定かでないが、文政年間(1818~29)には活発な活動をおこなっていた。その特徴は神事色の強い三番叟にあり、夏祭では拝殿での神事の際に、白づくめの袴袴姿の3人によって神前に向かって奉納され、神慮を慰めるため木偶を遣ったという古い形が伝わっている。続いて舞台に移って三番叟と芝居二幕が上演されるが、「本六方(ほんろっぽ)」「弓張り」「樋口」などとよばれる昔ながらの独自の型が伝承されている。

もう一つ注目できるのは、1月(もとは1月15日)の人形仕立ての神送りである。三番叟が行列を先導し、人形2体が神輿を担ぎ、ヤッコグサの毛槍を掲げた人形数体が続く。こうして村内の災厄を村境まで送り出すのであり、ここにも人形を神聖視した伝統が生きている。人形のかしらは44頭を有する。

今回は、『三番叟(さんばそう)』『本朝廿四孝 十種香の段(ほんちょうにしゅうしこう じゅうしゅうこうのだん)』を上演する。

◇今回の講座は、伊那市公民館講座の受講生も聴講できます。

生涯学習課